



















野原のマストリヤー

上野村指定(国選択)文化財(無形民俗文化財)
平成7年3月1日指定
保持団体 野原部落会

野原のマストリヤーは、旧暦の8月15日に行われ、その起源については不明であるが、村建の中で離散していた部落民をまとめるためにおそらく今から280年前(1716年)の村建の頃から行われているものと考えられている。

マストリヤーの語源は、昔は穀物などで税を納めていたことから、納税の際に穀物を「升取屋」と呼ばれる升本で納めていたことに起因すると推察されている。そして課税された穀物を完納した喜びを神に感謝し、来る年の豊作を祈願して「マストリヤー」の祭を行うようになったと考えられている。

マストリヤーの特徴は、男の棒振りと女の抱き踊りとなぎ踊りで構成され、それぞれが単独ではなく、棒振りが先に始まり女踊りが後に続く多数の男女の引き踊りである。棒振りの打ち合いの動作は勇壮活発であり、武器がない時代の武術のひとつという説と南方から渡米した踊りという説がある。男の勇壮な棒振りとは対比的に女踊りはテンポが遅く緩やかで静かに、かつ、優雅に舞う。

マストリヤーは野原部落の創草期の頃からの人々の精神、風俗、慣習などを知る上で貴重な無形の民俗文化財といえる。

国指定重要無形民俗文化財

宮古島のバ...

宮古島のパーントゥ (野原のパーントゥ)

国指定文化財(重要無形民俗文化財)
平成5年12月13日指定
保持団体 野原部落会

平良市島尻に伝わる島尻のパーントゥとともに国の重要無形民俗文化財に指定されている。野原のパーントゥは、上野村野原部落で旧暦12月最後の丑の日に行われるサトゥバライ(里絨い)という行事で出現する。パーントゥは仮面(鬼面)であり、お化け、鬼神を意味した言葉であるという。野原部落ではいつ頃から伝わったかについては不明であるが、部落の共有物として、パーントゥの仮面がある。

サトゥバライの行事は、婦人と中学生までの男子で構成して行われ、婦人たちは頭と腰にクロツグとセンニングサを巻き両手にヤブニッケイの小枝を持つ。男子1人はパーントゥの仮面をつけ、他の男子は小太鼓とホラ貝で囃す。夕刻、大嶽に向かって長老が「すべての悪を払い、良い事ばかり招来できる良い年を迎えさせて下さい。」と願いごとを述べ出発する。行程は部落中央の通りを通るが、新築の家などから申し出があれば多少道順をかえ新築の家などを誂う。行程では婦人たちが小枝を振り「ホーイホーイ」と声を出すとホラ貝が「ブーブー」と吹かれる。四辻にさしかかると2列隊形から円陣にかえ3回回って円陣中央に向かい屈んで輪を小さくしながら小枝を激しく振り「ウルウルウル・・・」と叫ぶ。行程の終点は部落の南西の端、ムスルンミで身に付けていた草や小枝を取りはずして置き、巻き踊りをして行事を終了し各各帰路につく。

































































































































































































